

市民公開シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場も喫煙防止・禁煙支援指導 などの喫煙対策の場として活用すべきである」

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会（予定）
2. 共 催：日本医学会連合（依頼中）、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（予定）
3. 後 援：日本歯学会連合、日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和二年4月18日（土）午後1-4時30分
5. 場 所：日本大学歯学部大講堂（1号館4階）（〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1丁目8-13）
6. 分科会開催：予定なし
7. 開催趣旨：

現在全国の喫煙率は減少傾向にあるとはいえ、国が目標として掲げた「2022年までに喫煙率の半減」の達成は確実ではない。加えてタバコ産業は加熱式タバコなど新たなタバコ製品を市場に投入し、タバコへの批判をそらし、結果としての喫煙人口の維持拡大を図っている。従って脱タバコ社会を目指す日本学術会議としてもこうした状況を分析検討し、タバコ対策を見直すことが迫られている。

喫煙関連疾患の中で歯周病はあらゆる年齢層にみられ、有病率が高く、かつ慢性に経過するため、その予防・治療・保健教育の場は、絶好の喫煙防止・禁煙支援の場を提供している。WHOは「口腔保健・医療従事者・専門家は、多数喫煙者に接することができるので喫煙者の禁煙誘導に関し重要な潜在的可能性を持っている」と指摘し、さらに、「日常的に喫煙による口腔への影響を観察しているため、喫煙の害を強く懸念している」とも述べている。

口腔疾患医療の場は、患者が直接口の中を見て喫煙の影響を確認し、あるいは唾液検査から喫煙・受動喫煙の程度を把握する機会を提供することが可能であり、禁煙への動機づけに適した場の一つである。また、歯周病に対しては継続的な治療とメンテナンスが必要であり、外来受診は長期間にわたる。そのため、歯周病治療の場は禁煙治療の場としても適している。禁煙外来で効果を上げるためには継続的な受診が必要だからである。実際、歯科診療の場での禁煙支援の効果は、既に多くの研究で実証されている。しかし、我が国では口腔疾患の予防・治療の場を喫煙防止・禁煙支援の場として活用する体制が整備されているとは言い難い。この点を中心に、広く市民とともに議論するために、本公開シンポジウムを計画した。

8. 次第

午後1時 あいさつ：岸玲子日本医学会連合副会長（内諾を得て、正式に依頼中）

午後1時5分から午後1時45分まで セッション1

座長：中村正和 地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター センター長

講演：村上伸也 大阪大学大学院歯学研究科歯周病分子病態学 教授「喫煙防止・禁煙指導における歯科と医科の連携——日本学術会議からの提言案 の紹介」

午後1時45分から午後2時25分まで セッション2

座長：山下喜久 九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野教授

講演：長尾徹 愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座 主任教授「歯科9学会のコホート研究の成果+厚生労働省コホートの研究成果」

午後2時35分から午後3時15分まで セッション3

座長：尾崎哲則 日本大学歯学部歯学科医療人間科学分野 教授

講演：稲垣幸司 愛知学院大学短期大学部歯学衛生科・専攻科教授「歯科外来における禁煙支援外来の設置」

休憩 午後3時15分から午後3時25分まで

午後3時25分から午後3時45分まで セッション4

座長：岸玲子 日本医学会連合副会長

講演：中村正和 地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター センター長 「研究成果を制度につなげる——学術団体としての役割」

午後3時45分から午後4時15分まで セッション5

座長：松村英雄 日本歯科医学会連合副理事長、

講演：福田仁一 口腔9学会脱タバコ社会実現委員会委員長

「歯科医師が患者に行う禁煙指導にかんする日本歯科医師会等の研修などにかんする体制」

午後4時15分から4時45分ころまで

全体討論

座長：瀬戸皖一 総合南東北病院口腔がん治療センター長、秋葉澄伯 弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授

指定発言：秋葉澄伯 弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授

午後4時45分ころ

閉会のあいさつ：松村英雄 日本歯科医学会連合副理事長